

議 長	局 長	次 長	係 長	係 長	課 員	担 当

第 31 回議会改革推進会議 会議記録簿

開 催 日	平成 28 年 5 月 19 日 (木)	場 所	特別会議室
開催時間	午後 1 時 30 分～午後 2 時 32 分	休憩時間	時 分～ 時 分 時 分～ 時 分
出席委員	全 員 ・ 欠席 1 名 (山口健一 委員、 委員、 委員)		
その他 出席者		事務局 出席者	澤口道夫事務局長、及川忠則次長、 皆川賢司係長、長内紳悟主査

(適用・要旨)

進行：座長 中平浩志議長

○協議案件

(1) 議員活動の検証・評価について

・本日は、平成 27 年度改革取り組み事項について、議会活動チェックシート（事務局調製案）をもとに検証・評価を行う。

【ICT活用による審議・調査の充実】

・タブレット端末の普及は進んだが、今後どのように活用していくかが課題となってくる。事務局調製案のとおり、今後はペーパーレス化の取り組みに重点を置く必要があるのではないか。まずは、議会改革推進会議でペーパーレス会議にしてはどうか。（上山昭彦委員）

・今年度、市当局でもタブレット会議を進めていくと伺っている。議会としてはもっと先の取り組みを進めていかなければならない。（中平浩志議長）

・項目「住民から見た変化」について、取り組み効果として住民実感があるかどうか分からないが、間接的には紙代・郵送代が削減になっていることは住民にとっての変化に繋がることから、その趣旨をシート上に表記することとする。なお、達成度評価は「A」とする。

【政策的議員提案条例の制定】

・乾杯条例と地産地消条例の折衷案について検討してみたが、やはり難しいと感じる。それぞれで制定を進めたほうがいいのか。一步前へ進める取り組みを早めに打たないと、平成 28 年中の制定は厳しいのではないか。（澤里富雄委員）

・乾杯条例は一部専門的、地産地消条例は総合的な条例であることから、もし進めていくとすれば乾杯条例を先行させ、その取り組みを検証しながら地産地消条例に繋げていけばよいのではないかと。また、乾杯条例の直接的利害関係者として、酒蔵1社、佐幸本店の1社という市内の状況をどう捉えて進めていくか検討課題である。(小野寺勝也委員)

・酒蔵が1社という状況で進めた場合、住民からは一企業を支援しているに過ぎないとの受け止めがされないかと危惧する。そこをどう捉えて進めるかが課題である。(中平浩志議長)

・そういう危惧もあることから、酒だけでなく地場産品を使用し造られた飲料水や白樺の樹液なども含めて、またアルコールを飲まれない方にも考慮して条例案を作成したところである。(澤里富雄委員)

・条例名に「地酒」と入っているが、お酒を強調しないほうがよいのではないかと。(佐々木栄幸委員)

・お酒ということではなく、地場産品を使用し造られた飲料水ということを前面にして条例化を図ればよいのではないかと。(桑田鉄男委員)

・もともと条例案の趣旨は、お酒に限らず地場産品で乾杯しましょうという内容になっている。(澤里富雄委員)

・「地酒」という表現を使わないで、地元産品で乾杯するというのが条例名で表現できればよいのではないかと。(中平浩志議長)

・条例策定作業の実施母体を議会改革推進会議とし、条例名には「地酒等」を用い、条文のなかで日本酒に限らず広く地場産品を使用し造られた飲料水ということを定義することとする。まず、関係者との意見交換を一度行い、試飲会も取り入れながら開催することとする。なお、達成度は「B」とする。

【議員定数の適正化】

・本日の会派代表者協議会で「議会のあり方検討会議」の各会派共同提案設置が決定したことから、達成度は「A」とする。

(2)「高校生×ギカイ」の企画検討について

・会議メンバーについて、高校生・議員以外はできるだけ高校生の価値観に近い若者に参加してもらったほうがよいのではないかと。(澤里富雄委員)

・会議メンバーは、Uターン組みの若手農業者や地域おこし協力隊員など、多種多様な分野から参加メンバーを募ったほうが高校生にとっても刺激になるのではないかと。(桑田鉄男委員)

- ・テーマや問いの設定について、「10年後、こんな町、環境だったら戻ってきてもいいかな」「10年後、こんな職場、環境があったら戻ってきてもいいかな」というフランクなテーマで話し合ったほうがいいのか。(中平浩志議長)
- ・この取り組みは継続していかなければ意味がないと思う。最初の参加者は執行部生徒だけだとしても、今後徐々に多くの生徒に広げながら展開していきたい。(中平浩志議長)
- ・18歳選挙権や模擬議会などの取り組みに発展させていけばよいのではないか。(小野寺勝也委員)
- ・かだつて会議を開催する前に、一度議場を見てもらうなど議会を知ってもらう機会を作ったほうがよいのではないか。(澤里富雄委員)
- ・一関市議会では高校生との意見交換会を1時間設定としていたが、最低でも1時間半なければ話の深まりがない。これまで通り、2時間を基本にかだつて会議は開催するべきではないか。(桑田鉄男委員)
- ・本日の協議を踏まえ、高校側と意見調整しながら高校生かだつて会議を企画していくこととする。